

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

内容
①始まりの挨拶 ②「能」・「狂言」とは？ ③絵本読み聞かせ「鞍馬天狗」 ④謡(うたい)を全員で体験してみよう ⑤能面をつけてみよう <休憩>(10分) ⑥「能」・「狂言」の舞(まい)や所作を全員で体験してみよう ⑦能「鞍馬天狗」を演じてみよう ⑧質疑応答 ⑨終わりの挨拶 [所要時間90分(途中 10分休憩含む)] ▼公演当日のワークショップ *狂言「柿山伏」について *能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～

タイムスケジュール (標準)					
▼10:00 開始の場合					
到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～9:45	10:00～11:30	10分	11:30～12:15	12:15
▼13:30開始の場合					
到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
11:15	11:15～12:30	13:30～15:00	10分	15:30～16:15	16:15

派遣者数
能楽師:5名(シテ方4名・狂言方1名)、スタッフ:1名 計6名

学校における事前指導

特にありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－
本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

演目

- ①能のお話
 - ②狂言「柿山伏」の上演
 - ③狂言「柿山伏」について
 - ④能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～
<休憩>(10分)
 - ⑤能「鞍馬天狗」の鑑賞にあたって
 - ⑥能「鞍馬天狗」の上演
 - ⑦能楽師との交流の時間～感想と質問～
 - ⑧終わりの挨拶
- [公演時間90分(途中10分休憩含む)]

派遣者数

出演者:21名、スタッフ:1名、舞台・運搬スタッフ:4～5名 計26～27名

タイムスケジュール (標準)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～11:30	13:30～15:15	10分	15:20～17:20	17:20時

実施校への協力依頼人員

搬出入時及び会場設営時に2,3名のお手伝いをお願いすることがあります。

演目解説

▼狂言「柿山伏」について

典拠:「宇治拾遺物語」の「実ならぬ柿の木」に説話がみられる。

あらすじ:

山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、喉が乾いてしまい、ふと見上げると見事な柿があることに気づく。木の下から落とそうと試みるが、中々巧くいかなかったので、木に登って柿を食べてしまう。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた持ち主に当たり、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまう。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後に鳶は飛ぶものだ、と言われ、飛んではみるものの、大怪我をして悪事が露呈してしまう。自分の罪を覆い隠そうとする山伏の滑稽な姿を、面白おかしく描いている。

▼能「鞍馬天狗」について

作者:宮増某(一説に世阿弥とも)

典拠:源義経の幼少期を題材とした能。「平治物語」の牛若丸の條、幸若の「未来記」などの伝説から取材したものと考えられる。

あらすじ:

鞍馬山西谷の花見の招待を受けた東谷の僧は、稚児たちを連れて西谷へ行き、花見の宴を開く。そこへ一人の見知らぬ山伏が侵入して来たので、僧たちは座を立てて帰ってしまう。沙那王(牛若丸)は、一人居残って山伏に対し好意を示す。山伏は沙那王を連れて花の名所を見せて廻った後、実はこの鞍馬山に住む大天狗であることを明かし、明日の再開を約して僧正が谷へ飛び去る。翌日沙那王は、約束の場所に来て待っていると、大天狗が輩下の天狗を従えて現れ、沙那王に兵法の奥義を伝え、平家を滅ぼす時に力を添えることを約束して、夕影の暗くなった鞍馬山の杉の梢に飛び去って行く。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 狂言「柿山伏」を鑑賞後、特徴的な所作などを全員で体験します。
- 能「鞍馬天狗」へ稚児役として一部の児童・生徒が舞台に立ち、全員が鑑賞位置から地謡役として参加します。

児童生徒とのふれあい

- 当日出演する能楽師が子どもたちとコミュニケーションをとりながら解説します。
- 鑑賞後に能楽師との交流の時間を設けます。子どもたちが鑑賞を発表しあったり、能楽師からも感想を伝え、子どもたちからの質問にも答えます。

